



北海道ロードメンテナンス株式会社 支笏作業所

台風や雪崩など 自然災害の後も、 道路の復旧作業に 素早く対応



ロードメンテナンス株式会社 支笏作業所 深尾徳司所長

風光明媚な支笏湖周辺と札幌を結ぶ国道453号や、苫小牧へとつながる国道276号。どちらも都市部との間の大切な輸送道路であり、常日頃から安全に通行できる状態が求められています。冬は24時間体制で仕事にのぞみ、パトロールでは事故につながるような小さな変化も見逃さないよう努力する、北海道ロードメンテナンス株式会社支笏作業所の深尾徳司所長に、除雪をはじめ、維持管理のご苦労など、お話をうかがいました。

吹雪に出動、覆道で一昼夜過ごす

札幌市中央区に本社を置く北海道ロードメンテナンス株式会社は、夏は主に一般土木工事、排水構造物清掃、道路清掃作業を行っています。また冬は除排雪作業、融雪作業、凍結防止剤散布、交差点・横断歩道除雪作業にあたり、1年を通じて快適な道路の維持管理に努めています。

支笏洞爺国立公園内にある支笏湖周辺の国道453号、および国道276号の維持管理を担当しているのが同社の支笏作業所で、「昨年（平成16年）は台風18号通過後の復旧作業が大変でした」と深尾徳司所長が話しはじめます。

「モーラップという地域の木が倒れ、道路を全面的に塞いでしまったんです。わたしがパトロールに出て、通過して5分後にはもう通れない状態になっていました。作業員を動員しチェーンソーで細かく木を刻んでは、人力で移動するという作業を繰り返し、翌日には通れるようにしたんです。もちろん木を切っている時に、他の木が倒れてこないという保証はなく、細心の注意を払いながら作業をしました」

また大規模な雪崩が発生した時は、2次災害を避けるため覆道の中に車を止め、一昼夜過ごしたこともあります。「車の前も後も真っ白で何も見えませ



雪崩後の復旧作業

んでしたが、仲間が一緒だったので心細いということはありませんでした」と、落ち着いた表情で当時の様子を振り返ります。自然と向き合いながらの仕事なので、時には大きな災害と直面することもあります。それゆえ現場で作業する人たちの安全を優先。かつ迅速な道路の復旧を目指しています。

冬期は24時間体制で 除雪や凍結防止剤散布

夏と冬では同作業所の体制も異なり、冬は24時間体制で待機し、除雪のほか凍結防止のための薬剤散布などを行います。パトロール員が2～3時間かけて支笏湖畔周辺を点検して帰ってくると、また別のパトロール員が同じルートを回り同様にチェック。特に山間部を管轄しているので刻々と代わる気象条件には細かく注意を払い、インターネットなどで気象情報を入手します。

交通量が多く、歩行者のいる都市部では夜間の除雪が一般的ですが、山間部は道路の復旧がメインとなるので時間帯を問いません。あつという間に積雪が10～20cmになることも珍しくはなく、いつでも出動可能な状態にあります。作業機械も都市部は高速グレーダー、山間部は大型のロータリーやトラックグレーダーで、雪を谷に飛ばせるようシュートを長くしているのが特徴です。

「国道453号は道路の幅が広くはないので、一般道路のように除雪した雪を横にやるのではなく、拡幅除雪をしないと雪が交通の妨げになります。もちろん除雪車は作業をしているのでノロノロ運転になりますから、ドライバーの中には心よく思わない人もいるでしょう。見通しのよいところで除雪車を止め、一般車両を先行させることも心がけています。まずは安全第一」という深尾所長。

また散布する薬剤や方法でも都市部と山間部では違いがあり、都市部は主に塩化ナトリウム、緊急に凍結路面を融かす必要がある場合は塩化カルシウムなどを用います。それに対しスリップ事故の危険性が高い山間部では塩化ナトリウムはもちろんのこと、砂や碎石を含むすべり止め材が常時使用されているのが現状です。トンネルなどの出入り口や局部的に日陰になる区間など、場所によっても散布の量が適切かどうか事前に把握し、温度や雪氷量を見極め、過大な散布をせず、状況に合った作業を行うよう社内での指導を徹底しています。

冬でも快適な道路環境を整えるのが使命

支笏湖周辺は紅葉の名所としても広く知られていますが、そのため秋は交通渋滞気味になることもしばしばです。しかもこの辺りはナラやタモなどの広葉樹が多く、たくさんの落ち葉があれよあれよという間に道路に広がります。雨でも降ろうものなら事故の原因になりかねませんし、冠水を引き起こすことにも。落ち葉を素早く片付けることも大事な業務です。

また自然豊かな北海道だからこそころの野性動物の交通事故死。道路に放置されていると、それを避けようとして事故になる可能性があるため、これもまた一刻も早い対応に努めています。

「去年、大きな雪崩があった時は雪の中から何十頭という鹿の死骸が出てきて、私たちが片付けました。鹿には申し訳なかったですが、これが人でなくては本当によかったと胸をなでおろしたんです。のり面に亀裂はないか、雪崩になりやすい箇所はどうだろうかと、これからはもしっかりパトロールしていきます」

管轄するエリアは火山の影響を受けており、そのため国道453号沿いは火山灰の上に腐葉土が堆積。その上に木々が根をはっているという不安定な状態です。大量の雨はもちろんのこと、強風による倒木の危険性が高いため「あやしいな」と思われる角度の木も見逃しません。道路周辺は国有林が多く管轄は林野庁になりますが、相互に連絡を取るようにし、交通の障害となりそうな樹木は早めに伐採するようにしています。

札幌オリンピックを機に開通した国道453号は、札幌から支笏湖の各温泉にも通じており、地域産業にとって欠かせない道路です。数年前まで冬期間閉鎖されるほど立地的に厳しい場所がありますが、通年走行となった今、冬でも快適な道路環境を整えるのが大きな使命。

「道路の維持管理は縁の下の力持ち的存在。以前、本州で橋を作っていた時、完成すると“この橋を作ったのはオレだ”っていう、自負みたいなものがありました。そんな派手さはないものの、しっかり維持管理をすることでジワっとこみあげてくる達成感もまたいいものです。これからも、努力を惜しまず、安全で快適な道路づくりに社員一同取り組んでいきます」と、力強く言葉を締めました。